

和文化講座「歌舞伎講座」

●世界に誇る歌舞伎の素晴らしさ (2)



関西・歌舞伎を愛する会
代表世話人 川島靖男
和文化教育学会 理事



● 第2回

大向う、屋号、顔見世、歌舞伎の出し物、歌舞伎の音楽、長唄、竹本、清元、常磐津、歌舞伎からの流行、浮世絵はブロマイド、江戸時代の素晴らしさ、心の演技、国際人とはなど



● 大向う (おおむこう)

観客席の役者

(舞台への参加)

- 舞台から見た向こう側 = **正面客席。**
- 大は極限の意。天井桟敷の事。
- 席は安価で、芝居好きが何回も通うのに好都合の席。
- その席から、役者に声を掛けた。(舞台を引き締める効果)
- 大向うをうならせる = **大衆の賞賛をあびるの意。**
- 関西には、初音会という大向うの会がある。

(大向うの基本)

- セリフにかぶせない。
- 掛けるタイミング、間が大切。
出、見得、引っ込みなどで掛ける。
- 声の質も舞台に合わせるなど。

(大向うの効果)

- 舞台が一層盛り上がる。
- 役者が気持ちよく芝居ができるようになる。
- いいタイミングで決まると、観ている方も気持ちよくなる。

● 屋号 (やごう)

江戸時代、俳優の身分は一般庶民の下に置かれ、公式には苗字を名乗れなかった。商家などになって、屋号をつけた。出身地や、自ら営業していた店の名前などをつけたものが多い。

(歌舞伎俳優の屋号は、100以上ある)

- 松嶋屋 ⇒ 片岡仁左衛門
- 成駒屋 ⇒ 中村芝翫、中村橋之助、
- 成駒家 ⇒ 中村鴈治郎、中村扇雀、中村壺太郎
- 中村屋 ⇒ 中村勘九郎、中村七之助
- 成田屋 ⇒ 市川團十郎、市川新之助
- 紀伊国屋 ⇒ 澤村藤十郎
- 音羽屋 ⇒ 尾上菊五郎、尾上菊之助
- 高麗屋 ⇒ 松本白鸚、松本幸四郎、市川染五郎
- 山城屋 ⇒ 坂田藤十郎 (元・中村鴈治郎)



四条南側に東、中、西。北側に東、西。大和大路、北入西。七軒の劇場。歌舞伎は、3～4座で公演。現存は南座のみ。

● 顔見世 (かおみせ)

- 江戸時代に毎年11月に行われた。
- 以降の1年間、その劇場に出演する役者の顔ぶれを披露する興行の事。
- 江戸時代は、劇場と役者の契約は、11月から1年間が通例。
- 名古屋・御園座＝10月
東京・歌舞伎座＝11月
京都・南座＝12月
大阪にも以前、顔見世があった。(5月)



● 櫓 (やぐら)

- 江戸時代、幕府から興行を許された劇場のみに掲げられた。
- 左右に梵天が立っている。神様が降臨するため、八百万の神をかたどって800枚の美濃紙で毎年新しく作られる。



破風

● 破風 (はふ)

- 芝居の語源は、芝の上(青天井)で観ていたことから。
- 火事による消失を防ぐため、享保8年から瓦屋根付きの芝居小屋が義務付けられた。今日、南座に唯一客席に屋根が無かった名残がある。



● 劇場前の飾りつけ（広告宣伝）



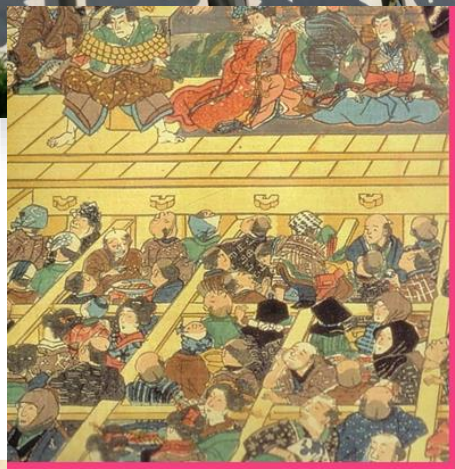
- まねき書き
檜の板に、総数
54枚
井上優さんが揮
毫。



- まねき上げ



- 絵看板
穂東宣尚（のりひさ）
さん



大相撲

江戸

寄席文字

● 勘亭流

(かんていりゅう)

- 歌舞伎独特の書体。
- 江戸の書道指南・岡崎屋勘六（号は勘亭）が中村座のために書いた。
- お客がいっぱい入るように縁起をかついで、筆太に隙間なく、内に丸く曲げて書くのが特色。
- 相撲文字や寄席文字と共通するところもあるが、少し違う。

● 歌舞伎の出し物

3つに分類

- ① **時代物** (じだいもの)
- ② **世話物** (せわもの)
- ③ **所作事** (しょさごと)

● 時代物 (じだいもの)

- テレビの時代劇とは別のもの。江戸時代の人から見た時代劇。
- 武士や公家の社会に題材を得ている。
- 人物、町の様子は江戸時代のもの。
- 武士の美談であっても実名での上演は禁止。人物設定が、鎌倉や室町時代、または、それ以前のものに置き換える。
- ほとんどは、人形浄瑠璃を歌舞伎化したもの(義太夫が使われる)
- 代表的作品・・**仮名手本忠臣蔵**(かなでほんちゆうしんぐら)

14世紀にワープ。太平記の人物の名を借りて脚色など。

(実在の人物)

(置き換えた登場人物)

浅野内匠頭(あさのたくみのかみ)⇒**塩冶判官(えんやはんがん)**

吉良上野介(きらこうずけのすけ)⇒**高師直(こうのもろのう)**

大石内蔵助(おおいしくらのすけ)⇒**大星由良之助(おおほしゆらのすけ)**

萱野三平(かやのさんぺい)⇒**早野勘平(はやのかんぺい)**

神崎与五郎(かんざきよごろう)⇒**千崎弥五郎(せんざきやごろう)**

天野屋利兵衛(あまのやりへい)⇒**天河屋義平(あまがわやぎへい)**



仮名手本忠臣蔵



- **野崎村**
お光(藤十郎)、久作(左團次)
久松(翫雀)

● 世話物 (せわもの)

- 江戸時代の町人社会に題材。
そこに生きる人達を描いた芝居。
- 町人社会を描いた現代劇と
言える。
- 描写は写實的。
- 幕府に気兼ねする必要がない。
生き生きと描く。
- 代表的作品
野崎村(のざきむら)
大阪大東市、野崎観音
お染と久松の恋物語。



太刀盗人 目代丁字左衛門 澤村藤十郎

- 松羽目（まつばめ）

能舞台正面の松を描いた舞台。能や狂言に取材した舞踊劇の背景には、松羽目を用いる。これを松羽目物と言う。（勧進帳・船弁慶など）

- 所作事（しょさごと）

- 所作とは、動作、ふるまい、身のこなし、と言った意味。
- そこから、舞踊や舞踊劇を所作事と言っている。
- 所作台を使う。（舞台全面にひのきの台を並べる）
- 足の滑りがよいので踊りやすい。
- 足を踏んだ時、良い音が出る。（音響効果）

● 歌舞伎の音楽

下座音楽(げざおんがく)



御簾内(みすうち)での演奏

- 黒い色をした、舞台下手にある簾(すだれ)のかかった演奏部屋。黒御簾(くろみす)とも言う。
- 使う楽器は、三味線のほか、大鼓、小鼓、太鼓、笛、木魚、木琴など広範囲に及ぶ。
- 幕開き、人物の出入り、場面の転換、立ち廻り、など演出に絡んで演奏される。
- 常に何百曲という音楽が頭に入っていて、演出家の注文や進行にあわせて演奏しなければならず、よほどの熟練者でないと勤まらない。
- もちろん生演奏であり、下座音楽のよしあしで舞台の成果は違ってくる。

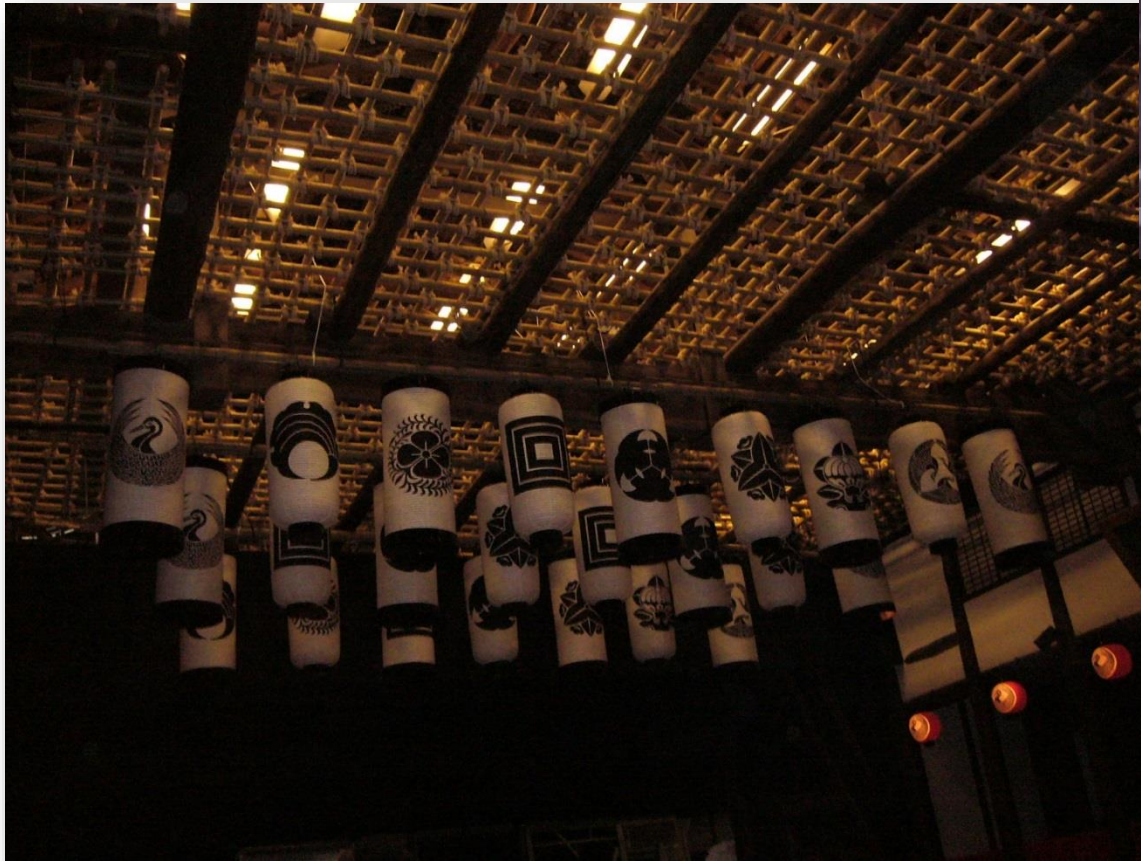


● 歌舞伎の音楽

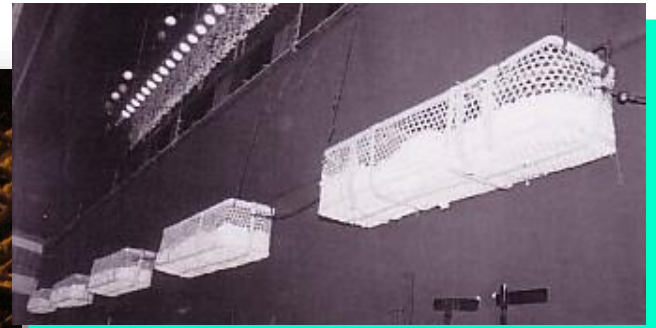
(ツケ打ち)

- 役者の演技に付けて(合わせて)、打つ効果音の事。音を付ける。
- 舞台の上手で、ツケ板と呼ばれる四角い板の前に正座し、役者の見得や動き、物の落下などに合わせて、物音を強調する役割を果たす。
- 役者がもっともかっこよく見える瞬間をさらに際立たせるための効果音。
- ツケの出来で芝居の印象を左右するほど重要。





四国こんぴら歌舞伎金丸座
ブドウ棚・・・裏方がブドウ棚
の上を歩いて客席に紙吹雪
などを降らしたりする。



● 雪音

- 四角に切った和紙。
昔は、三角
- 雪籠という目の粗い籠を
引く。
- ドーン、ドーンという太鼓
で音もない 雪音を表現
する感性の豊かさ。



● 歌舞伎の音楽

● その中でも中心は、長唄、竹本、清元、常磐津

〈歌舞伎のおもな三味線サウンド〉

語り物

義太夫や常磐津、清元は「浄瑠璃」という語り物の芸能の一種。メロディにのせて歌詞を唄うのではなく、物語を特徴のある節まわしによって語る。現在、歌舞伎に出るのは主にこの3つだ。

義太夫

常磐津

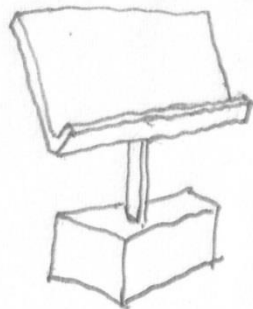
清元

唄い物

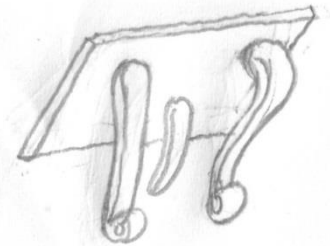
歌舞伎の伴奏音楽として発達。ボーカルに必ず三味線がついて、長唄という音楽の一ジャンルとなる。打楽器と笛を担当する鳴物も長唄に附随。舞踊の伴奏としての役割のほか、BGMでもある下座音楽も担当する。

長唄

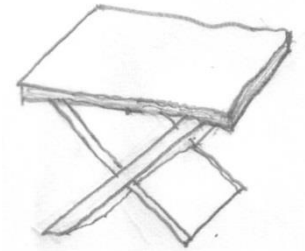
- **清元**・・・浄瑠璃の一流派。清元延寿太夫が創設。



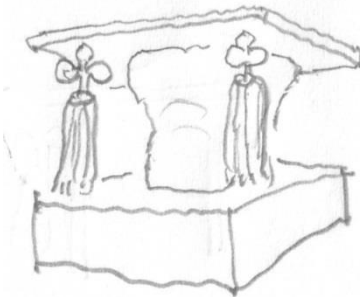
- **常磐津**・・・長唄とならんで舞踊の音楽の中心を占める。



- **長唄**・・・囃子連中の編成が一番派手。

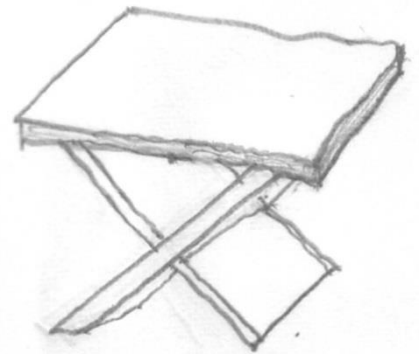


- **竹本**・・・義太夫節。太夫と三味線の二人編成。



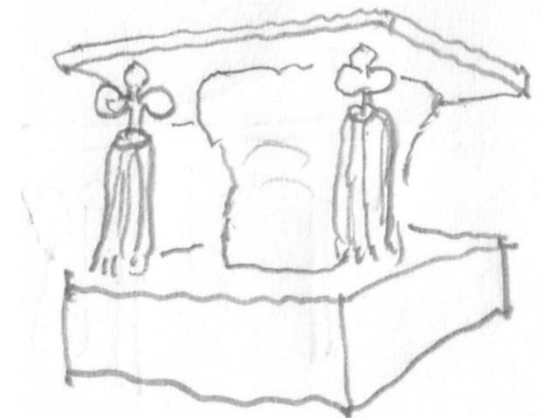
● 歌舞伎の音楽 (長唄)

- 歌舞伎と言われるように、一番初めに来るのが音楽。
- その中でも中心は、長唄、竹本、常磐津、清元。
- 長唄…最も多く使われる。明るい響きと流れるような節回しが特徴。
 - 囃子連中の編成が、一番派手。
 - 三味線(細棹・ほそざお)、笛、小鼓、大鼓、太鼓などが使われる。
 - 勧進帳、京鹿子娘道成寺、連獅子など



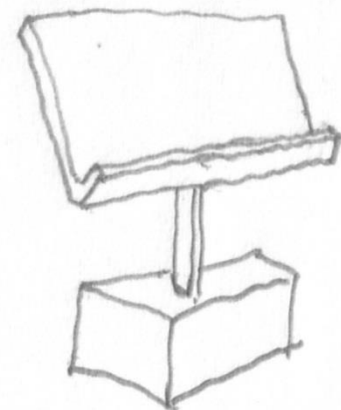
● 歌舞伎の音楽 (竹本・たけもと)

- 義太夫、または義太夫節とも呼ばれる。もともと文楽から発生したもので、せりふの合い間などで、大夫が情景などを語る。竹本義太夫によって創設。
- 声をふりしぼるように歌う。文楽からの作品が上演される時は、竹本が聞ける。基本的に大夫と三味線の二人だけの編成。
- 三味線は、太棹(ふとざお)と呼ばれる、棹が太い。胴も大きく糸はもっとも太い糸を使う。ベンベンベンと腹の底にしみわたる低音。
 - 仮名手本忠臣蔵、義経千本桜など



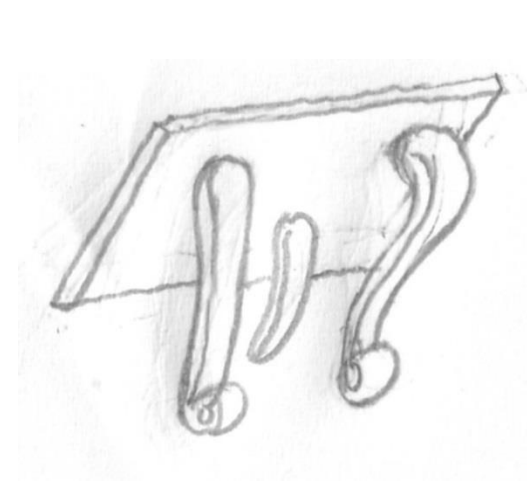
● 歌舞伎の音楽 (清元・きよもと)

- 浄瑠璃の一流派。清元延寿大夫(えんじゅだゆう)が創設。
- 江戸時代に生まれた浄瑠璃の中では、一番新しい。
- 高音と繊細なのが特徴で粋で派手。細部に凝った江戸末期の爛熟した雰囲気が出ている。
- 三味線は中棹(ちゅうざお)を使用。
- 三社祭、義経千本桜、隅田川など



● 歌舞伎の音楽 (常磐津・ときわず)

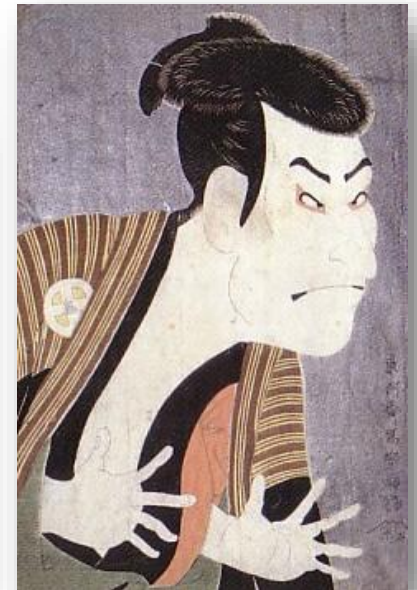
- 竹本と同じく、語り物の流れを受け継ぐ。浄瑠璃の一流派。
- 長唄とならんで歌舞伎舞踊の音楽の中心を占める。
時代物は重厚に、世話物は情緒豊かに、と旋律を工夫し
人気を高めた。
- 三味線は中棹(ちゅうざお)を使用。 ● 妹背山婦女庭訓など



● 歌舞伎は、流行の発信基地・新商品開発も

役者が身につける衣裳の色や柄は、庶民に大きな影響を与えた

- **色の流行**・・・江戸紫(市川團十郎)、海老茶(市川海老蔵)、梅幸茶(尾上菊五郎)
- **キャラクター商品の開発**・・・團十郎煎餅・雷蔵おこし、仙女香(三代目瀬川菊之丞の白粉)、人気役者の紋が入った櫛、かんざし
- **役者絵はブロマイド**・・・興行前に大量に摺って入場券の積極的な営業活動(一枚、約400円、蕎麦一杯と同じ)
- **劇中CM**・・・「東海道五十三次 小田原外郎」
で外郎や旅行の宣伝
「助六由縁江戸桜」で三浦屋や
白酒売りのPRも
- **二代目市川團十郎はCMタレント
第1号**



● 歌舞伎から生まれた、流行の数々

最先端モードは、歌舞伎から



● 市松模様

1741年(寛保元年)、歌舞伎役者、佐野川市松が、「高野心中」の衣裳に使った。石畳からヒント。

● かまわぬ(鎌輪ぬ)

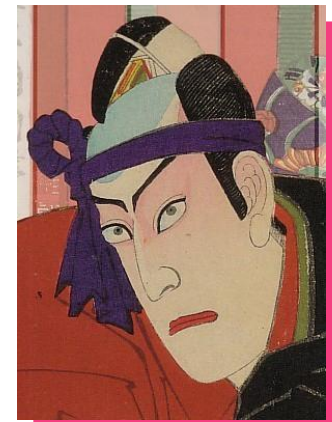
七代目市川團十郎が舞台衣裳に使用。「舞台では何をやってもかまわぬ」「物事にこだわらない」

● 吉弥結び

京都で活躍した人気の女方、上村吉弥(かみむらきちや)が舞台上で結んだ帯結びが流行した。



見返り美人図の切手
(吉弥結び)菱川師宣



● 助六の江戸紫

● 江戸時代は・・・

- 世界の中でも最も豊かな社会。
- 265年間も続いた平和な時代。
- 日本人（庶民）が最も輝いていた時代。
(武士は教養と誇りはあるが貧しい生活)
- 江戸時代の素晴らしさを
再認識しよう。

● イメージとは正反対の、江戸時代の素晴らしさ

- 江戸時代は、暗く遅れた時代だったのか。(イメージは、封建社会・士農工商・鎖国・百姓一揆・徳川幕府の圧政・・・など)
- 実際は、世界で最も豊かな社会の一つであった。
 - ① 世界史上、例を見ない200年間続いた平和な時代。
 - ② 鎖国という言葉を知らなかった。四つの窓口から貿易と交流、情報収集
 - 長崎口 ⇒ オランダ、中国
 - 薩摩口 ⇒ 琉球
 - 松前口 ⇒ 蝦夷
 - 対馬口 ⇒ 朝鮮と貿易、交流
 - ③ 江戸幕府は、外交と軍事、直轄地の運営を担当する連邦政府。300に近い「藩」が自らの藩の司法、行政、経済、自治を担当。
 - ④ 遊び上手で元気な庶民、武士はプライドはあるが、貧しい生活。
 - ⑤ 徹底して物を大切にする、リサイクル都市。
 - ⑥ 寺子屋は、世界一の教育制度。学ぶ前に人間としての厳しい躾をした。
 - ⑦ 女性も旅をする驚くほどの治安の良さ、少ない百姓一揆。
 - ⑧ 社会的責任を果たす商家。現在と変わらない経済活動。
 - ⑨ 歌舞伎・文楽・錦絵・俳句・園芸など、庶民が作り上げた花開く文化芸術。

● 庶民にとって歌舞伎とは何だったのか

(庶民は、教養高い、遊びの達人だった)

● 最高の娯楽

- ①芝居を知らないと、相手にされなかった。
- ②家で作った弁当(幕の内弁当)とお酒を持参し、安い平土間の升席で1日楽しんだ。
- ③豊かな商家は、前日の夜に屋形船で芝居茶屋へ。休憩と食事のあと観劇。幕間は芝居茶屋で休憩、時には轟頂の役者を呼び飲食。(お嬢さんは幕間ごとに着替え。結婚式のお色直しはここから)
- ④実際起こった事件がすぐに芝居化されるなど、今日のワイドショーや週刊誌と同じであった。

● 情報の発信基地(歌舞伎はメディアミックス)

- ①人気役者の浮世絵は今日のブロマイドであり、庶民が買った。
(版元、蔦屋重三郎は、写楽、北斎を育てた名プロデューサー)
- ②役者の台詞、衣裳、色彩などを庶民が真似をした。
- ③芝居の中に商品や店の宣伝を入れた。二代目市川團十郎はCMタレントの第1号。「外郎売」で小田原名物、外郎を宣伝。

● 江戸文化の頂点をなすのが歌舞伎であった。

● 幕府は歌舞伎をどう見ていたか

(質素・儉約・秩序・平和が、幕府の基本姿勢)

- 社会の秩序や良俗を乱すものとして、**歌舞伎と遊郭は、二大悪所として抑圧した。**
- 特に圧倒的に人気の高い歌舞伎は、庶民を扇動する力を持っていると思われ、監視下に置かれた。
- 劇場の許可制(シンボルが櫓) ⇒ 中村座・市村座・森田座・山村座に興行許可。
(山村座は、後に絵島生島事件によって取り潰され三座となった)
- **抑圧したが潰すことはしなかった。**庶民の反発が大きいし、非日常空間である、芝居小屋で日頃の不平不満が解消されれば社会の安定にもなり、大目に見た。
(大名や旗本にも歌舞伎ファンは多く、棧敷席の常連。大名屋敷での歌舞伎上演もあった)

● 庶民の遊び、楽しみ

江戸庶民は遊びの名人。生産の拡大で生活も豊かに

- **最大の娯楽は歌舞伎など、芝居見物。**軽業、曲芸、珍獣(象、ヒョウなど)
- **相撲**・谷風、小野川、雷電為右衛門などの人気力士で盛り上がる。
- **旅**・徳川幕府によって、五街道(東海道・中山道・日光道中・奥州道中・甲州道中)が整備され、安全に旅が出来るようになった。旅のガイドブックも発行。旅行斡旋業者が存在し、お伊勢参りを世話。1年で500万人にも。
- **ファッション**・歌舞伎模様「鎌輪ぬ」小袖は、今日のオートクチュール。
- **花火**・吉宗は、飢饉の犠牲者を供養などのため、隅田川で花火打ち上げ。
- **花見**・徳川吉宗は、隅田川堤に桜を植え、花見の名所にした。
染井吉野は、染井村(豊島区)の植木屋が、エドヒガンとオオシマザクラの交配。当初、吉野桜として売り出していた。
- **園芸**・アサガオ、ツバキ、ツツジ、キクなど、ガーデニングブーム。
- **湯屋**・男女混浴の風呂屋。武士も裸の付き合い。入浴の後は2階で囲碁、将棋、茶菓子でのんびりと。
- **遊郭**・吉原は幕府公認。遊女だけで3000人。
食料品店、雑貨店などもあり1万人ほどが暮らしていた。花魁は教養豊かな文化人。
- **俳句、貸本、犬、猫、小鳥、金魚など。**



● 日本の文化を知ってこそ国際人

津田和明・元日本芸術文化振興会理事長

(元サントリー副社長)の経験談。



- サントリーのロンドン支店長をしていた時、いろいろな家庭に招かれた。その時、歌舞伎や能など日本の文化について質問が出された。片岡仁左衛門はどうかなど、相手は役者の名前まで良く知っていた。
- 歌舞伎などを見たことがないので、良く知らないと白状するしかなかった。
- 相手は、日本人なのになぜ知らないのか。イギリス人ならシェイクスピアの芝居は誰でも知っているのにと不思議がられた。
- いくら語学や仕事が出来ても、自国の文化や歴史を語る事が出来なければ軽く見られ尊敬もしてくれない事がわかった。また、海外のビジネスパートナーとして対等になれない。日本で歌舞伎や能を見ていなかった事を大いに悔やんだ。
- 日本人でありながら日本の文化の事をほとんど知らない自分が恥ずかしくなり、すぐに日本から本を取り寄せて勉強した。
- 若い人に日本の伝統芸能の素晴らしさを知ってもらいたいと思う。

● 歌舞伎は、世界に比類の無い演劇

- 絢爛豪華な舞台、衣裳、様式美
- 考え尽くされた舞台機構。廻り舞台、花道、セリ、がんばり返し、宙乗り
- 演劇空間を空中まで拡大する演劇は歌舞伎以外に無い
- 海外の方も心を打つ、ドラマ
- 俳優と観客が一体となって作り出す
- 歌舞伎の柔軟性(マンガ・絵本なども歌舞伎化)
- 400年経っても、なお進化する素晴らしさ



- 阿国歌舞伎の原点、最先端を意味する「傾く」ことを忘れずに、古典の素晴らしさにプラス、歌舞伎俳優以外の俳優も共演、さらに最新の舞台技術や映像を取り入れる柔軟性。俳優の方々の一生修業の研鑽、舞台を支える多くの縁の下の方々の素晴らしさ、そして、何よりも歌舞伎を愛する多くのファンがある限り、歌舞伎の将来は明るいものがある。

伝統は、革新の連続。日々新たなり…。伝統は新しい…。

● 歌舞伎を好きになる見方、楽しみ方



歌舞伎は、難しいものではありません。江戸時代から続く、大衆演劇です。気楽にお楽しみください。

- 役者を好きになる
- 絢爛豪華な舞台、衣裳などを好きになる
- 心が安らぐ邦楽(三味線・小鼓・大鼓・太鼓・笛など)を好きになる
- 宙乗り、早替わり、本水(本当の水)の舞台が好きになる
- 華やかな舞台、心を打つ演技、女形(方)の素晴らしさが好きになる
- 出し物の内容が好きになる、その他、自分に合った楽しみ方を見つけてください。(シネマ歌舞伎 ⇒ 歌舞伎の本公演へ)
- 世界に誇る伝統芸能、歌舞伎を知ることによって、豊かな心になり、一生の財産になることは確実です。
- 日本を知ることこそ、国際人のスタートです。

- 世界に誇る伝統芸能、歌舞伎を関西でもっと盛んにしましょう。
- 日本人が日本の良さを知りません。これでは、日本への誇りも出てきません。日本の素晴らしい文化を知ってこそ、国際人といえます。
- 歴史は連続です。先人から引き継いだ以上のものを創造し、次代に渡す義務があるのではと考えます。
- ご清聴ありがとうございました。皆様方の、ますますのご活躍を祈念申し上げます。
- 時節柄、お身体にご自愛ください。

ご意見や質問などがありましたら、ご連絡下さい。

携帯・090-5165-1710

E-mail:ykawa@hat.hi-ho.ne.jp

川島靖男

関西・歌舞伎を愛する会 代表世話人
和文化教育学会 理事

